

横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

苗場保育園

平成 28 年 3 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター



目次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域 サービスの実施内容.....	6
評価領域 地域支援機能.....	9
評価領域 開かれた運営.....	10
評価領域 人材育成・援助技術の向上.....	11
評価領域 経営管理.....	12
利用者家族アンケート分析.....	13
利用者本人調査.....	17
事業者コメント.....	19



実施概要

事業所名	苗場保育園
報告書作成日	平成 28 年 2 月 25 日 (評価に要した期間 7 か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

* 評価方法

1. 自己評価	<p>【実施期間：平成 27 年 8 月 6 日～11 月 14 日】</p> <ul style="list-style-type: none">・職員会議で趣旨説明をして、常勤・非常勤すべての職員が持ち帰り、記入した。・個人が記入した自己評価票をもとに、各クラス（複数の職員）で意見を交換しながら分担して、指定箇所を重点的に話し合った。それを持ち寄り、全体会議で各クラス分担箇所のまとめを発表、全体で協議・合意してまとめた。
2. 利用者家族アンケート調査	<p>【実施期間：平成 27 年 11 月 2 日～11 月 16 日】</p> <p>配付：全園児の保護者（57 世帯）に対して、園から手渡しした。 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。</p>
3. 訪問実地調査	<p>【実施日：平成 28 年 1 月 20 日、1 月 26 日】</p> <p>第 1 日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：書類調査～事業者面接調査（園長）</p> <p>第 2 日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：職員ヒアリング（乳児リーダー、幼児リーダー、調理員、一時保育担当保育士、非常勤職員） ～事業者面接調査（主任）</p>
4. 利用者本人調査	<p>【実施日：平成 28 年 1 月 20 日、1 月 26 日】</p> <p>訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。 乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。</p>



評価結果についての講評

【施設の概要】

苗場保育園は、JR線・市営地下鉄「戸塚」駅、またはJR線「大船」駅からバスに乗り、「ドリームハイツ」下車、徒歩約5分の住宅地にあります。昭和56年（1981年）1月に開設され、横浜保育室を経て、平成16年（2004年）4月、社会福祉法人いずみ苗場の会が運営する認可保育園となりました。同法人は、園のすぐ近くに小規模保育事業所「えんがわ」と放課後等デイサービス「つぼみの広場」を運営しているほか、泉区内で、保育および障がいの分野で多くの事業所を展開しています。

園舎は2棟あります。本棟は2階建てで、1階が3歳児室、4歳児室、2階が5歳児室、事務室など、別棟は平屋建てで、0歳児室、1歳児室、2歳児室、厨房などとなっています。園庭は園舎を取り囲んでいて、砂場・すべり台・鉄棒・うんていなどが設置されています。

定員は68名（産休明け～5歳児）で、開園時間は、平日7:00～20:00、土曜日7:00～18:00です。

保育理念は、“「すべての人々はこの世に必要があって生まれてきている」の思いのもと、どんな子どもも分け隔てなく受け入れ、共に生活する充実感のある、楽しい生活の場とします。”としています。保育方針は“よく食べ よく遊び 育ち合う”です。

1. 高く評価できる点

子どもたちは、よく遊び、たくましく元気に過ごしています。

天気が良い日には、午前と午後に、園庭や公園などで外遊びをしています。室内活動の前後にも時間があれば園庭で遊ぶ時間を作っています。運動会以降、リレー遊びが盛んで園舎の周りを走ったり、公園では枯れ枝をバトン代わりにして走っています。園庭にある砂場では、ままごと遊びをしたり、泥を手につけて怪獣ごっこをする姿も見られます。引き車に友だちを2人乗せて三輪車を漕いだり、二輪車に乗ったり、すべり台で遊んだり、子どもたちは自由に遊んでいます。保育者も子どもたちと一緒に走ったり、泥んこ遊びをしたりして、子どもの気持ちを感じ取っています。異年齢で遊ぶ子どもも多く、年上の子どもたちのリレーに年下の子どもが自然に入っています。また、5歳児が「お兄さん先生」「お姉さん先生」として、乳児クラスに一日入り、着替えを手伝ったり、絵本を読んであげたりしています。公園や広場では、ドッジボールや鬼ごっこなどルールのある遊びなどもしますが、木の茂みに潜り込んだり、小枝を組み立てて恐竜を作ったり、集めた枝を焚き火に見立ててパーティーごっこをしたり、子どもは自分で遊びを見つけて楽しんでいきます。

また、園のプランターで、子どもたちがミニトマト・キュウリ・ナスなどを育て、クッキングで用いたり、5歳児は、毎朝当番が米を研ぎ、水加減を調整し炊飯器にセットするなど、食の大切さを子どもたちは学んでいます。集団活動では、幼児クラスは、外部講師による週1回のリズム遊び、月1回造形表現遊びの時間があり、子どもたちはのびのびと自由に自分を表現しています。乳児クラスは、遊びの中で、わらべうたを取り入れています。

地域との交流として、隣地の小規模保育事業所「えんがわ」の子どもたちと、園庭での遊びや行事などで日常的に交流しているほか、近隣の保育園や幼稚園の子どもたちが来園して一緒に遊んだり、子どもたちが先方を訪れてドッジボールなどをして遊んでいます。また、子どもたちが地域の介護老人保健施設や多世代

交流サロンを訪問して、お年寄りと交流しています。

これらの活動の中で、保育者は、一人一人の子どもが持っている力を発揮して過ごすことができるよう支援しています。クラス内での打ち合わせのほか、毎週行われる月曜会（定例会議）などで、子どもの状況などを伝え合い、連携して保育にあたっています。

保護者との密接な関係が築かれています。

朝夕の送迎時などに、保育者は保護者とできるだけ話をし、子どもの様子などをエピソードなどを交えて伝えるようにしています。さらに、0～4歳児クラスは、毎日、連絡ノートを用いて詳しく情報交換しています。また、父母会が組織され、月1回の役員会には園長・主任や行事担当の保育士などが必要に応じ出席し、情報交換をしています。さらに、園では、夏に行われる全国保育団体合同研究集会の案内を保護者に配布し参加を誘うほか、「パパ懇談会」や「ママ懇談会」を開催しています。保護者にもっと保育のねらいなどに関心を持ってもらい、保育課程に掲げた事業方針「子ども・保護者・保育者が共に育ちあう場所」となるよう努めています。

地域の子育て支援に力を入れています。

子育て支援として、園庭開放、プール開放、一時保育を行っています。一時保育は、一日5組を目安に予約に合わせて職員体制を整え、別室も用意し、利用申し込みがあったときできるだけ断らないようにしています。また、地域の町内会館で月2回、子育てサロン「ぼっかぼか」を開いています。さらに、地域の子育て支援団体と協働して、「あったかコンサート」を開催したり、「離乳食講座」を開いています。

育児相談は、いつでも受け付けているほか、子育てサロン「ぼっかぼか」や地域の子育て支援団体が行う子育てサロンに園長・主任が出向いて育児相談に応じています。「福祉に優しい街づくりを目指す」という法人理念に沿って、園内だけでの活動に留まることなく、子育て支援に積極的に取り組んでいます。

2. 工夫・改善が望まれる点

マニュアルの整備と管理

健康管理・感染症への対応・衛生管理・安全管理・事故防止などのマニュアルが作成されていますが、制定年月日などの記入はなく、定期的な見直しは行われていません。マニュアルがなぜ必要なのかなど職員間で意識統一を図るとともに、現在のマニュアルで不備はないか、見直しの頻度をどうするかなどを検討することが望めます。

安全への配慮

子どもたちは元気に園庭で遊んでいます。いくつかのクラスが同時に遊ぶことが多く、保育者はクラスに関係なく適宜危険の無いように見守っていますが、園庭が細長く、園舎を囲む形になっているので、保育者の目が届かない場所に子どもがいたり、隅の方にある物品の陰に入り込んだりすることもあります。どのように安全を確保するか、職員の危機管理意識を高めるとともに、整理・整頓や不用品の廃棄なども含めて検討することが望めます。また、保護者アンケートでは、不審者の侵入防止対策について不安の声が多数あがっています。今後、どのように改善を図るか、保護者と話し合い対応することが望めます。









分類別評価結果






3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある




評価領域 利用者（子ども本人）の尊重



<p>評価分類 - 1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は、“「すべての人々はこの世に必要ながあって生まれてきている」の思いのもと、どんな子どもも分け隔てなく受け入れ、共に生活する充実感のある、楽しい生活の場とします。”としています。保育方針は“よく食べ よく遊び育ち合う”です。 ・入職時に、園長が保育理念や保育方針を説明しているほか、法人内全事業所の職員が集まる全体研修の中でも説明しています。 ・保育課程は、子どもの最善の利益を第一義とし、保育理念・保育方針を踏まえて作成しています。 ・保育課程に基づき、年齢ごとに、年間指導計画・月間指導計画・週案・日案を作成しています。 ・日々の保育の中で、職員は、子どもの年齢に見合った分かりやすい言葉で、必要なことをきちんと説明するようにしており、言葉で自分の思いを伝えることができる子どもからは、丁寧に聞き取るようにしています。また、子どもの態度・表情・仕草などからも、興味や関心を汲み取るようにしています。 ・指導計画は、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるようなものとしており、子どもの様子や状況に応じて、その日の活動を変更するなど、柔軟に対応しています。 	
<p>評価分類 - 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会后、園長が保護者と個別に面談しています。その後クラス担任も面談し、あらかじめ保護者に記入してきてもらった入園までの子どもの生育歴や家庭での状況などをベースに、詳しく聞き取っています。 ・保護者から提出された資料や面談時の記録は、事務室の決められた書棚に保管しています。気になったことや全職員に周知すべきことがあれば、職員会議で伝えています。 ・短縮保育は、保護者と話し合い、個別に対応しています。 ・0～4歳児は、個別にノートを用いて、保護者と連絡しています。5歳児は、クラスノートを用いて、必要な連絡をしています。 ・子どもの発達や状況に応じて、月間指導計画・週案を作成し、評価・見直しをしています。評価・見直しは、各クラス内で話し合って原案を作成し、職員会議や月曜会で報告しています。 	
<p>評価分類 - 3 快適な施設環境の確保</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・各保育室に温湿度計を設置し、適切な温度・湿度となるようにしています。0～4歳児室は、床暖房設備を備え、0歳児室はエアコンを設置しています。その他の部屋では、夏季には、水を霧状に噴霧するミスト冷房設備を使っています。 ・どの保育室も陽光を十分に取り入れられる構造となっています。日差しが強い夏季には、日よけネットを用いたり、ゴーヤなどを育てグリーンカーテンとしています。 ・沐浴・温水シャワー設備があります。使用後に清掃しています。 ・どの保育室も、カーペットやマットを敷いて遊びのコーナーを作るなど、小集団保育が行えるよう保育室の使い方を工夫しています。また、テーブルを置く位置や、おもちゃ・絵本の置き場所など、室内環境の見直しを各クラスで話し合っています。 ・マニュアルに基づき清掃が行われています。しかし、清掃チェックリストなどによる確認が無かったり、整理・整頓が不十分なところがあったりしますので、不用品の廃棄なども含め、安全面にも配慮した取り組みが望まれます。 	




<p>評価分類 - 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・ 0～2歳児クラスは、個別指導計画を作成しています。幼児は、配慮が必要な子どもについて、個別指導計画を作成しています。 ・ 哺乳や午睡の時間、離乳食やトイレトレーニングへの移行時期など、保護者と話し合い、個別指導計画に反映させています。 ・ 子どもの記録は、鍵の掛かる書棚に保管し、全職員が必要に応じ見ることができるようにしています。 ・ 進級時には、重要な申し送り事項を書類で連絡するほか、旧担任と新担任が話し合う時間を十分に確保しています。 	
<p>評価分類 - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮を要する子どもや、障がいのある子どもを積極的に受け入れています。例えば、家庭での送迎が困難な子どもの場合、園の車で朝夕の送り迎えをするなどの対応をしています。また、園庭からテラス・保育室へは段差があり、エレベーターが無いなど、バリアフリーとはなっていませんが、車椅子利用など身体が不自由な子どもが入園を希望した場合、必要に応じ複数の職員で対応するなどして受け入れることを、全職員が心得ています。 ・ 職員は、特に配慮を要する子どもや障がいのある子どもの保育に関し、横浜市などが行う研修に参加しています。参加した職員は、研修報告を作成し、会議で内容を伝えるなど、全職員が情報を共有できるようにしています。 ・ 障がいの特性を考慮した個別支援計画を作成しています。また、戸塚地域療育センターから助言や情報を得られる体制があります。例えば、担任の保育士が療育センターを訪問したり、療育センターの職員が来園したりして、日々の子どもの様子を把握し、話し合っています。 ・ 虐待が明白になった場合や、虐待が心配されたり見守りが必要な場合には、泉区役所や西部児童相談所に通告・相談し、連携して対応することとしています。 ・ アレルギー疾患のある子どもの場合、医師によるアレルギー疾患生活管理指導表に基づき、保護者と話し合い、適切な対応をしています。 ・ 食物アレルギーの場合、給食をトレイに乗せラップで包み、名札をつけて、調理員と保育者で確認しています。また、保育者が傍らに座ることとしています。 ・ 外国籍の子どもの場合、文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重しています。 ・ 日本語の不得手な保護者には、連絡帳の記述をひらがなにしたり、写真やボードを使ったりして伝えています。また、園だよりにふりがなをつけるなどの対応をしています。必要に応じて、泉区役所に依頼し、通訳を派遣してもらう用意があります。 	
<p>評価分類 - 6 苦情解決体制</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「苦情対応について」という文書で、保護者に苦情解決の方法を知らせています。苦情受付担当者は主任、苦情解決責任者は園長と定めています。 ・ クラス懇談会後にアンケートを実施したり、個人面談時に要望・苦情を聞いたりしています。 ・ 外部の権利擁護機関として、かながわ福祉サービス運営適正化委員会があることを紹介しています。 ・ 第三者委員を2名定めていますが、保護者が第三者委員に直接苦情を申し立てができる体制にはなっていません。 ・ 連絡ノートや口頭などで要望・苦情があった場合は、職員会議などで解決策を検討しています。しかし、苦情記録ノートに記録するには至っていません。苦情には至らない要望事項なども記録・蓄積・整理し、より良い園づくりに役立てることが期待されます。 	

評価分類 - 1 保育内容 [遊び]	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃに頼らず人との関わり中で遊びを見つけ出すことを大切にしているため、おもちゃの数は多くありませんが、おもちゃは子どもの目の高さに並べられ、自由に取り出して遊べるようになっています。乳児には人形や木のおもちゃ、音の出るおもちゃ、幼児にはトランプ、かるたなどゲーム性のあるおもちゃを用意するなど子どもの発達や年齢に合わせたおもちゃを用意しています。図鑑や科学絵本を保育室に並べ、散歩などで出た疑問を自分たちで確かめられるようにするなど、保育士は子どもの興味に合わせて環境構成を工夫しています。 ・デイリープログラムは子どもが自由に遊べる時間を多くとった、ゆとりのあるものとなっています。保育士は、時間に縛られることなく、子どもが遊んでいる様子を見ながら次の活動に移っています。 ・それぞれの子どものごっこ遊びをつなげてクラス全体でお店屋さんごっこをし、それを劇遊びに発展させるなど、子どもの興味や発想を集団活動に取り入れています。また、おにごっこやドッジボール、リレーなどルールのある遊びを数多く取り入れています。保育士は子どもが遊ぶ様子を近くで見守り、一人一人の子どもの興味に合わせて遊び方のヒントを出したり、一緒に遊んでお手本を見せたりしています。 ・プランターでミニトマト、キュウリ、オクラ、ナス、インゲンなどを育て収穫し、クッキングに用いたりしています。5歳児は、山形での田植えと稲刈り旅行の経験をしています。飼育としては、ザリガニ、オタマジャクシ、カブトムシなどを育てています。園の周辺は自然が豊かで、子どもたちは、日常的に、ダンゴムシやミミズ、アリなどを捕まえたり観察したりしています。 ・幼児は、外部講師による週1回のリズム遊び、月1回造形表現遊びの時間を設けています。子どもたちはのびのびと自由に自分を表現していて、保育室には子ども一人一人の個性が感じられる作品が掲示されています。乳児は、遊びの中でわらべうたを取り入れています。 ・子ども同士のけんかなどについては、乳児の場合は、保育士は間に入りお互いの気持ちを良く聞いて共感し、言葉を足して説明し、仲立ちしています。幼児の場合は、危険がない限り近くで見守り、自分たちで解決できるようにしています。どうしても解決できない場合には、間に入ってお互いの気持ちを確かめ、それぞれの子どもの相手が自分の思いを伝えられるように支援しています。 ・園庭での自由遊びで子どもたちは日常的に異年齢で遊んでいます。幼児がテラスで遊んでいる年下の子どもに絵本を読んで聞かせたり、年下の子どもの遊びの邪魔をしないようにリレーのコースを調整したり、年下の子どもが年上の子どもの様子を見て真似したりする姿をたくさん見ることが出来ます。また、5歳児が「お姉さん先生」「お兄さん先生」として乳児クラスに一日入り、乳児のお手伝いをしています。 ・天気が良い日には、午前と午後に園庭や公園、散歩などで外遊びをしています。室内活動の前後にも時間があれば園庭で遊ぶ時間を作っています。 ・子どもの発達に合わせて、跳び箱、リレー、綱引き、長縄などの運動能力を高める遊びを取り入れています。 	




<p>評価分類 - 1 保育内容 [生活]</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は一人一人の子どもの食事量や好みを把握し、個々に合わせて配膳しています。子どもの苦手な食材の時には量を調節し、子どもが食べられたという自信を感じられるようにしています。保育士は「おいしいね」「えらいね」などと声をかけ、食べられた時には誉め、子どもが自分から食べようという気持ちになるように働きかけています。 ・離乳食は段階だけでなく、一人一人に合わせてお粥の固さや野菜の大きさ、柔らかさなどを調整しています。冷凍母乳も受け入れていて、子どもの様子を見て時間を調整しています。 ・幼児は当番が配膳をしています。4・5歳児は当番がお米をといで、たいています。 ・季節の野菜を多く用いた、和食中心の献立となっています。おやつも手作りです。ひなまつり、たなばたなどの行事食を提供していて、年末のお楽しみ会では子どもたちのリクエストを聞き、幼児はバイキングにするなど盛り付けも工夫しています。 ・食材は、国産でなるべく農薬や添加物を用いない安全性のあるものを用いています。お米や野菜は山形のもの、野菜は地場の無農薬野菜を中心に用いています。食器は磁器を用いて、幼児、乳児で分けています。箸やスプーンは一人一人の子どもの発達段階を観察し、その子どもに合わせたものを用いています。箸は3歳の誕生日を目安に子どもの発達を見ながら導入しています。 ・毎月、給食会議を行い、翌月の献立や調理方法に反映しています。調理室が乳児保育室に面していて、匂いや音で食欲がわくようになっていきます。調理職員は乳児クラスの子どもの食べ様子を毎日確認しています。棟が別な幼児クラスは、調理職員が子どもの様子を見に行く機会を作っています。 ・献立表を作成し、前月末に保護者に配布しています。また、毎月の園だよりの「台所だよりに、献立作成のポイントや子どもの食事の様子、食育の様子などを掲載し、保護者に情報提供しています。「台所だよりに、レシピも載せ保護者が園の食事に関心が持てるようにしています。 ・給食試食週間として保護者が試食できる機会を設けています。また、懇談会の時に園のお米を試食したり、野菜の生産者の話を聞いたりする機会を作り、園の食事への考え方を保護者に伝えています。 ・眠くない子どもには強制することなく、子どものペースに合わせて眠りに入る時間をずらすなどの配慮をしています。午睡時には、カーテンを引き、優しくトントンするなど安心して眠りに入れるようにしています。 ・4歳児の後半から週1回寝ない日を作り、少しずつ午睡を減らしています。5歳児の6月からは午睡を一斉活動としていません。午睡は個々に合わせて対応していて、その日の体調によって寝る子どももいます。 ・生活の節目でトイレに誘っていますが、トイレを嫌がる場合には強制することはしていません。保育士は、一人一人の排泄リズムを把握し、その子に合わせた声かけをしています。1歳くらいからトイレに座ってみることから始め、間隔が開き成功することが多くなったら、保護者の意向を確認し、トイレトレーニングを開始しています。 	
<p>評価分類 - 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの健康管理マニュアル」があり、それに基づき子どもの健康状態を把握しています。 ・園の方針として食後には水を飲んで口をゆすぐこととし、歯磨きは行っていません。入園説明会や保護者会で、勉強会で学んだ根拠を保護者に説明し、理解を求めています。今後は、虫歯予防週間に園児に対して歯磨き指導を実施する予定です。 ・健康診断、歯科健診、身体計測の結果は健康台帳に記入しています。健康診断の結果は連絡帳で、歯科健診の結果は専用の用紙を用い、保護者に伝えています。 ・入園のしおりに登園停止基準と対応について記載し、保護者に周知しています。保育中に発症した場合には、保護者へ速やかに連絡し、対応について話し合っています。保護者が迎えに来るまでの間、事務所などで待つようにしています。また、各保育室と3歳児保育室前のテラスに掲示し、保護者に周知しています。 	
<p>評価分類 - 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルがあり、感染症の発症時など必要に応じて乳児会、幼児会で話し合い、掃除の方法などの見直しをしています。また、年度初めの職員会議で掃除の仕方について確認し、共有しています。感染症が出た時にも確認しています。 ・マニュアルに基づき清掃が行われています。ただし、清掃チェックリストなどで確認する仕組みがなかったり、整理整頓が行き届いていない場面も見受けられますので、さらなる取り組みが期待されます。 ・マニュアルに日付が記入されていないので、常に最新のマニュアルが分かるよう策定日や更新日を記入することが望まれます。 	




<p>評価分類 - 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理マニュアルがあります。マニュアルは事故や災害に対応していて、職員に周知しています。 ・毎月、地震や火災を想定した避難訓練を子どもと一緒に実施しています。職員は救命救急の研修を受講しています。 ・子どもの事故やケガは事故報告書に記載しています。事故報告書には、考察、配慮、マニュアルの確認などの欄があり、保育士が記載しながら原因を考察できるような書式となっています。事故にまで至らない事例に関してはヒヤリハット報告書に記載しています。事故やケガは職員会議で取り上げ、改善策について話し合っています。ヒヤリハットについては、ヒヤリハット係が取りまとめ、職員会議で報告しています。 ・安全管理マニュアルに不審者対応について定めるとともに、不審者対応訓練を実施しています。また、警察などの関係機関と連携しています。 ・保護者アンケートにて、園の不審者対策について不安の声が多数あがっています。職員への不審者に対する危機管理意識の徹底など園の対策を見直すとともに、保護者と園の目指す地域に開かれた保育園や園の不審者対策について意見交換することが期待されます。 	
<p>評価分類 - 3 人権の尊重</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は子どもの目線に合わせて優しく問いかけ、子どもの話を丁寧に聞いています。子どもの意見で受け入れることが難しい場合にも、すぐに否定するのではなくいったんは受け止め、他の遊びを提案したり、少しだけ試す機会を作るなどし、子ども自身が納得できるように働きかけています。 ・保育士は日々クラスや乳児会、幼児会で話しあい、子どもとの関わりについて見直しています。また、職員会議などで子どもの人権について、日々の保育や日誌、総括等から具体的な事例を取り上げて話し合い、周知徹底を図っています。 ・テラスや柵の陰、押し入れの下など子どもが友達や保育士の視線を意識せずに過ごせる場所がたくさんあります。また、保育室以外にも事務室など子どものプライバシーを守れる場所を用意することができます。 ・守秘義務、個人情報の取り扱いについてのマニュアルがあり、職員に周知しています。ボランティア、実習生に対しては、オリエンテーションで説明しています。保護者に対しては、入園のしおりやお便りに記載するとともに、保護者に懇談会などで説明しています。また、写真や子どもの名前をお便りやホームページに記載することについては、アンケートで保護者の意向を確認し、それに応じて対応しています。個人情報に関する記録は、事務室の施錠できる場所に保管しています。事務室は施錠し、警備会社による機械警備を導入しています。 ・遊びや行事の役割、順番、グループ分けなどを性別にしていません。発表会で使うマイクの色分けについて性別にしていなか話し合うなど、無意識に性差による固定観念で保育をしていないか職員会議や月曜会で取り上げ検証しています。 	
<p>評価分類 - 4 保護者との交流・連携</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット、入園のしおりに園の保育理念、保育の基本方針、保育目標を明記するとともに、入園説明会や懇談会で、保護者に説明しています。懇談会後にはアンケートを実施しています。 ・朝夕の送迎時には、担任は保護者とのコミュニケーションに努め、子どもの様子についてエピソードを交えて伝えています。0～4歳児は連絡ノートを用い保護者と情報交換しています。5歳児はクラスノートを用いています。年1回個人面談を実施しています。 ・連絡帳や口頭で相談を受けた保育士は必ず、園長・主任に報告し相談することとし、「報・相・連」体制の徹底を図っています。必要に応じて個人面談を設定し、園長、主任が対応する場合があります。相談は、相談記録、日誌の特記事項に記録し、継続的にフォローしています。 ・毎月園だより「なえば」を発行しています。園だよりには、月の予定、クラス便り、給食だよりなどを掲載しています。年3回、保護者懇談会を実施し、クラスの様子や保育の内容、目的を具体的なエピソードを交えて保護者に伝えていきます。保育室に行事の写真などを掲示しています。また、懇談会でビデオや写真などを用い、保護者に日常の保育の様子を伝えていきます。 ・年度末に文集を作成し、保護者に配布しています。文集には日々の子どもの写真がたくさん掲載されています。 ・年間行事予定表を作成し、年度初めに保護者に配布しています。プレイデー、お花見交流会など子どもと一緒に楽しむ保護者行事をたくさん実施していますが、保育参観や保育参加は実施していません。今後は、保育参観や保育参加など日常の保育の様子を見る機会を作ることが期待されます。 ・父母会があり、月1回の役員会に保育室を提供しています。役員会には園長、主任、行事担当の保育士などが、必要に応じて出席しています。また、父母会主催のバザーや園庭園舎の大掃除、広報誌の発行などで協力しています。 	

<p>評価分類 - 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の自治会、子育て支援団体などとの交流や、園庭開放、子育てサロン、一時保育の利用者へのアンケートから、地域の子育て支援ニーズを把握しています。また、下和泉・富士見が丘子育て支援ネットワーク連絡会、俣野公園プレイパークの会議、地域のつどい会議、子育てサポート会議などの各種会議に出席し、把握しています。毎週の月曜会で一時保育や子育てサロン、地域型小規模子育て支援事業所「えんがわ」の様子を報告するとともに、地域の子育て支援ニーズについて話し合っています。 ・園の子育て支援としては、園庭開放、プール開放、一時保育を実施しています。一時保育は、地域で子育てをしている保護者が困った時に受け入れてくれる場所があるという安心感が持てるよう積極的に取り組んでいて、障がいのある子どもなども受け入れています。一日5組を目安に予約に合わせて職員体制を整え、なるべく断らないようにしています。また、地域の親子が参加しやすいよう地域の町内会館で月2回、子育てサロン「ぼっかぼか」を開催しています。 ・運営法人は地域型小規模保育事業所「えんがわ」を隣地で立ち上げていて、子どもたちと日常的に交流しています。 ・水遊び・給食試食会を開催しています。また、地域の子育て支援団体と共催の「あったかコンサート」、地域の子育て支援所との「離乳食講座」を年2回開催しています。地域の子育て支援サロンにも協力しています。 	
<p>評価分類 - 2 保育所の専門性を活かした相談機能</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・月2回の子育てサロン「ぼっかぼか」で育児相談を実施しています。園庭開放の利用者の相談にも応じています。また、毎週火曜日に地域の子育て支援サロンで行われる育児相談に、園長、主任が応じています。 ・園の育児支援に関するチラシを地域町内会に回覧するとともに、子育てサポート会議で配布し、地域子育てサロンなどに置いてもらっています。 ・関係機関や地域自治会、子育て支援団体などのリストを事務室に置き、必要な職員がいつでも見ることができます。 ・関係機関との連携の担当は、園長、地域子育て支援担当保育士で、いつでも連携できる関係ができています。 	

<p>評価分類 - 1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・プレイデー、和太鼓演奏などの園の行事に地域住民を招待しています。また、下和泉・富士見が丘子育て支援ネットワーク連絡会、俣野公園プレイパークの会議、地域のつどい会議、子育てサポート会議などの各種会議に出席し、行事を行うなど協力しています。 ・町内会の役員を引き受けるなど地域との関係作りに努めています。町内会の夏祭りや公園愛護会の清掃に、職員が参加しています。 ・散歩の時には、保育士と子どもたちは地域住民と挨拶を交わし、交流しています。また、子どもたちは、地域の商店に買い物に出かけています。 ・5歳児が近隣の小学校を訪問し、交流しています。地域の保育園、幼稚園の園児が園を訪問し一緒に遊んだり、子どもたちが遊びに行きドッジボールをしたりなどし、交流しています。また、隣地の地域型小規模保育事業所「えんがわ」の子どもたちとは、園庭での遊びや行事などで日常的に交流しています。 ・地域の介護老人保健施設や多世代交流サロンを訪問し、子どもたちがお年寄りと交流しています。 	
<p>評価分類 - 2 サービス内容等に関する情報提供</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやパンフレットを用い園の情報を提供しています。パンフレットは区役所や子育て支援拠点、下和泉・富士見が丘子育て支援ネットワーク連絡会の所属団体、泉区社会福祉協議会のイベントなどに置いています。また、横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」に園の情報を掲載しています。 ・利用希望者からの問い合わせには、園長、主任、事務がいつでも対応できるようにしています。 ・見学希望に対しては、見学希望者の都合を聞き、相談して見学日を決めています。見学の際には、パンフレットを用い園長が説明しています。 	
<p>評価分類 - 3 ボランティア・実習の受け入れ</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・実習生・ボランティア受け入れのためのマニュアルがあり、オリエンテーションで園の理念や方針、配慮すべきこと、守秘義務などについて説明しています。 ・実習生・ボランティアの受け入れに際しては、あらかじめ職員に対して、会議や掲示で説明しています。子どもたちには朝の会で紹介しています。ただし、保護者に対して説明することは行っていないので、今後は園の考え方について説明することが期待されます。 ・ボランティアとして、職業体験の中学生を受け入れています。ボランティア受け入れの担当は主任で、終了後には感想文を書いてもらっています。 ・大学や専門学校の保育科や看護学校の実習生を受け入れています。実習生受け入れの担当は主任で、オリエンテーション時に実習生と相談し、実習目的に応じたプログラムとなるようにしています。実習後には意見交換の機会を設けています。 	

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類 - 1 職員の人材育成	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・園運営に十分な人材構成となるように、経験年数などを考慮し、必要に応じて人材の補充を行っています。 ・職員は、横浜市や関係機関、研究会などが行う研修に参加しています。研修に参加した職員は、研修報告を作成し、会議で内容を伝えるなど、全職員が情報を共有できるようにしています。 ・マニュアルは事務室に備えてあり、非常勤職員も見ることができます。 ・非常勤職員の指導は主任が担当し、職員間のコミュニケーションが良好となるようにしています。 ・保育の総括や、外部研修へ参加した職員の報告会などを行っていますが、内部研修を定期的に行うには至っていません。 ・現場実習（OJT）・研修（OFF-JT, 職場内、職場外）自己啓発などを組み合わせて、どのように職員の育成を図るかの方針・取り組みなどを人材育成計画として策定することが望まれます。その中に、自己啓発の一環として、個々の職員が自己目標を毎年定め、達成度の評価を行う体制を取り入れると、より効果的な人材育成への取り組みとなることが期待されます。 	
評価分類 - 2 職員の技術の向上	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修などで、他園の工夫・改善した良い事例を得た場合は、職員会議で報告し検討しています。 ・外部の専門家から、わらべ歌をどう教えるか、保育をどう考えるかなどの指導を受けています。 ・年間指導計画書・月間指導計画書・週案・日案などに、振り返り・自己評価の欄を設けています。保育に関する自己評価は、計画で意図したねらいと関連付けて行い、子どもの意欲や取り組む姿勢がどうであったかなどを重視しています。 ・指導計画の自己評価結果から、保育所としての課題を事業報告書に記載し、次年度の事業計画に改善課題として盛り込んでいます。 ・保育所としての自己評価をするには至っていません。 	
評価分類 - 3 職員のモチベーションの維持	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・「職員の役割期待水準規定」を定め、1年目、2年目、5年目以降など経験年数に応じた期待水準を記載しています。 ・日常の保育や保護者との対応など、それぞれの担当者が責任を持って対応するようにしています。 ・会議の場だけでなく、いつでも園長などに改善提案をしたり、意見を述べるすることができます。 ・園長は、一人一人の職員が記入した意向調査表をベースに個別に面談し、満足度・要望などを把握しています。 	

<p>評価分類 - 1 経営における社会的責任</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・全国保育士会倫理綱領を全職員に配布し、守るべき規範、倫理などを周知しています。また、他施設での不正・不適切な事例などを入手したときは、職員会議などで取り上げ、職員に啓発しています。 ・法人理事会の報告を職員会議で行っています。また、1年間の保育の様子などを写真も含めて文集まとめ、保護者に配布しています。 ・「環境・資源への取り組み」を明文化し、職員に周知しています。 ・ゴミの分別を行い、各クラスに子どもにも分かりやすい表示をしたゴミ箱を設置しています。園庭整備で出た草木などのゴミは、乾燥してから出すなど減量化に努めています。また、生ゴミ処理機を備え、堆肥化して、プランターで子どもたちが花や野菜を育てる際に利用しています。さらに、保護者には家庭で出た空き箱やペットボトルを持ってきてもらい、製作などの素材として利用したり、職員が手づくりおもちゃを作ったりしています。 ・ゴーヤなどを育て、緑のカーテンを作っています。また、園の行事の中で食べ物が出る行事の際は、「マイ食器・マイコップ」の取り組みをし、保護者にも協力してもらっています。 	
<p>評価分類 - 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・入職時に、園長が保育理念や保育方針を説明しているほか、法人内全事業所の職員が集まる全体研修の中でも説明しています。 ・園長や主任は、父母の会総会や役員会に必要に応じ出席し、意見交換しています。 ・重要事項が決定されたときは、職員会議などで目的・決定理由・経過などを十分に説明しています。また、保護者には、掲示したり、文書で連絡したりしています。例えば、子ども子育て新制度実施に伴い、重要事項説明書の交付、利用契約書の締結が必要になりましたが、保護者に十分説明し、同意を得ています。 ・中堅職員を乳児クラスリーダーや幼児クラスリーダーに任命し、経験を積ませることで、主任クラスを育成する体制を取り入れています。 ・主任は、日々現場に出て個々の職員の保育の様子などを把握するほか、保育日誌などからも業務状況をチェックしています。また、個々の職員の能力や経験にあわせ、的確な助言や指導を行っています。 	
<p>評価分類 - 3 効率的な運営</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営に影響のある情報は、泉区役所や横浜市園長会などから得ています。 ・職員一人一人の能力アップにどのように取り組むかなど、人材育成の方法について検討しています。 ・法人本部が、平成25年度から5年間の経営ビジョンを作成しています。それに基づき、地域の子育て支援をさらに充実させることを検討しています。 ・運営に関し、社会保険労務士の意見を取り入れ、職員が働きやすい環境にするための労働条件や環境の改善に取り組んでいます。 	



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

実施期間：平成 27 年 11 月 2 日～11 月 16 日

実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。

回収率：配付 57 件、回収 38 件、回収率 66.7%

【結果の特徴】

【問 1】の「園の保育目標や保育方針」については、82%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答え、そのうち 91%の保護者が保育目標や保育方針について「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

【問 2】～【問 7】の設問では、37 項目中、ほとんどの項目で、「満足」「どちらかといえば満足」の回答が約 85%以上となっています。そのうち、数値が高い順に挙げると次のとおりです。

【問 7】「職員の対応」中の “子どもが保育園生活を楽しんでいるか”	100%
【問 4】「日常の保育内容（遊び）」中の “クラスの活動や遊び”	97%
同 上 “子どもが戸外遊びを十分しているか”	97%
【問 2】「入園する時の状況」中の “入園時の面接などで子どもの様子や成育歴を聞く対応”	95%
“保育園での 1 日の過ごし方についての説明”	95%
【問 4】「日常の保育内容（遊び）」中の “遊びを通じた子どもの健康づくりへの取り組み”	95%
“遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているか”	95%
【問 6】「園と保護者との連携・交流」中の “開所時間内あれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応”	95%
【問 7】「職員の対応」中の “子どもが大切にされているか”	95%
同 上 “話しやすい雰囲気、態度であるか”	95%

【問 2】～【問 7】の設問の中で、「どちらかといえば不満」「不満」の回答が多かった項目を 4 つ挙げると、次のとおりです。

【問 5】「保育園の快適さや安全対策」中の “外部からの不審者侵入を防ぐ対策”	55%
同 上 “施設設備について”	37%
【問 6】「園と保護者との連携・交流」中の “送り迎えの際、子どもの様子に関する情報交換”	24%
同 上 “園の行事の開催日や時間帯への配慮”	18%

【問 8】の「総合満足度」は、92%です。（「満足」47%、「どちらかといえば満足」45%）

“毎日子どもが楽しそうに登園している”“たくさん散歩に行き、いろいろなことを経験させてもらっている”などの声があります。一方、“安全対策に不安がある”“衛生面で気になる事が時々ある”などの意見があります。

苗場保育園 利用者家族アンケート集計結果

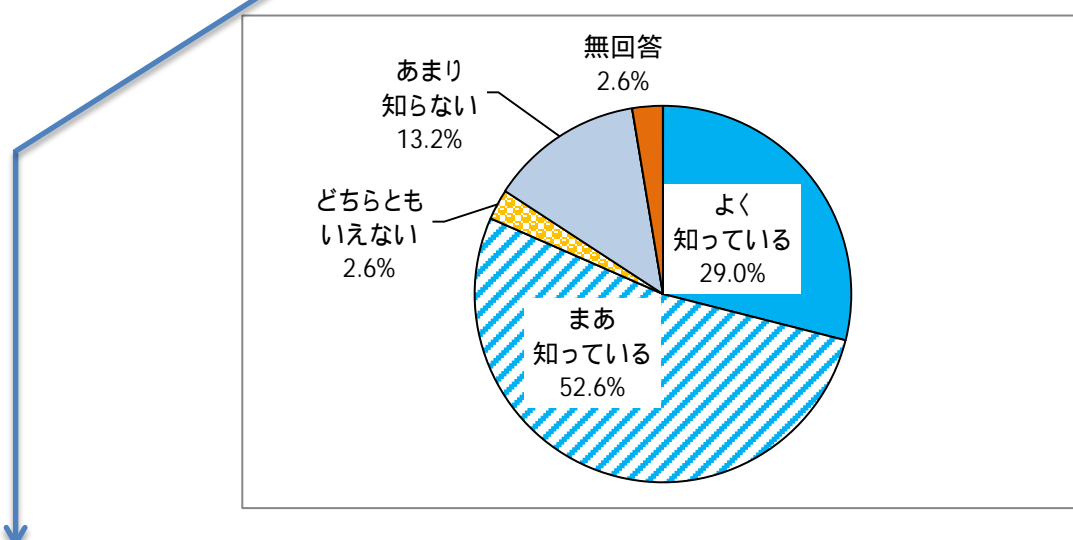
実 施 期 間	平成27年11月2日～11月16日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	57 件
有 効 回 答 数	38 件
回 収 率	66.7 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	9	5	9	6	6	3	0	

2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

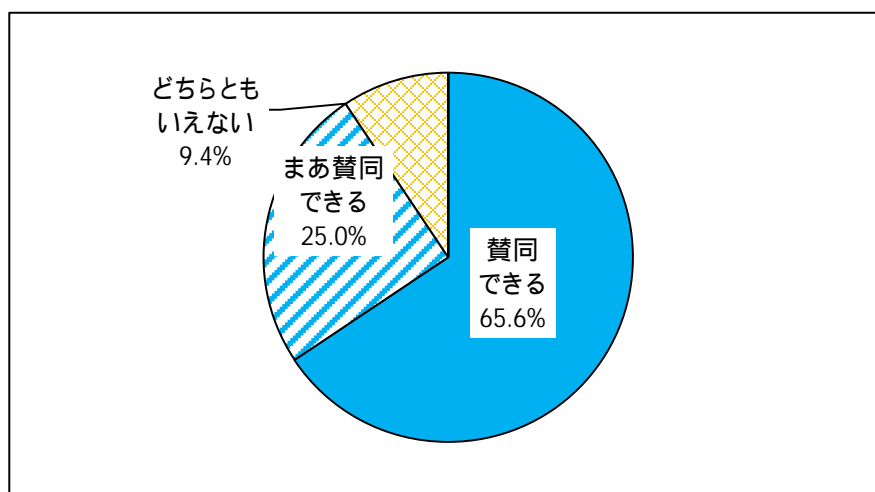
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	29.0	52.6	2.6	13.2	0.0	2.6	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	65.6	25.0	9.4	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	65.8	21.0	2.6	0.0	10.5	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	44.7	42.1	7.9	0.0	2.6	2.6	
園の目標や方針についての説明には	52.6	31.6	13.2	2.6	0.0	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	60.5	34.2	5.3	0.0	0.0	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	47.4	47.4	5.3	0.0	0.0	0.0	
費用やきまりに関する説明については	50.0	28.9	13.2	7.9	0.0	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	23.7	60.5	13.2	0.0	0.0	2.6	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	23.7	63.2	5.3	2.6	2.6	2.6	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	76.3	21.1	0.0	0.0	0.0	2.6	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	84.2	13.2	0.0	0.0	0.0	2.6	
園のおもちゃや教材については	47.3	36.8	5.3	0.0	5.3	5.3	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	71.1	21.1	2.6	0.0	2.6	2.6	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	76.3	18.4	2.6	0.0	0.0	2.6	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	65.8	28.9	2.6	0.0	0.0	2.6	

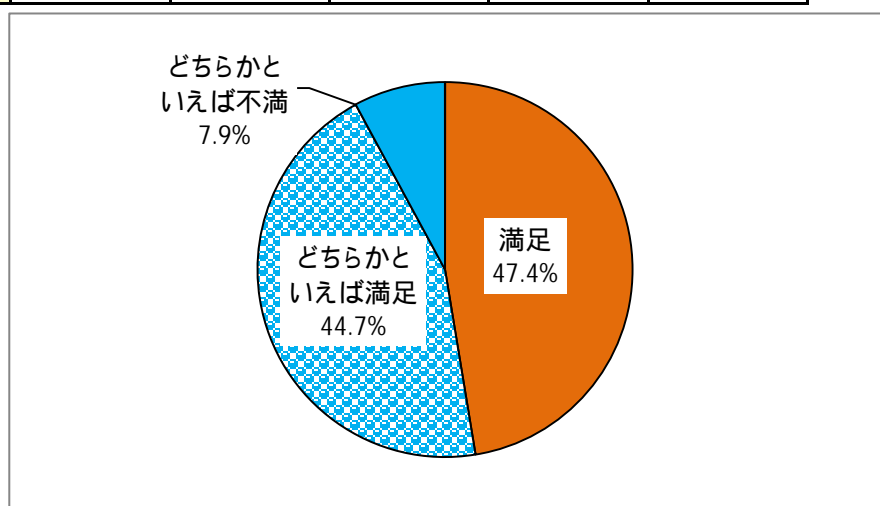
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	81.6	10.5	2.6	0.0	2.6	2.6	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	71.1	15.8	2.6	0.0	5.3	5.3	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	52.6	26.3	7.9	0.0	7.9	5.3	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	71.1	21.1	5.3	0.0	0.0	2.6	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	71.1	13.2	7.9	0.0	0.0	7.9	
お子さんの体調への気配りについては	68.4	23.7	2.6	2.6	0.0	2.6	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	47.4	34.2	10.5	5.3	0.0	2.6	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	18.4	34.2	28.9	7.9	7.9	2.6	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	44.7	42.1	7.9	2.6	0.0	2.6	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	5.3	23.7	39.5	15.8	13.2	2.6	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	55.3	23.7	15.8	0.0	0.0	5.3	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	39.5	47.4	7.9	2.6	0.0	2.6	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	55.3	23.7	10.5	5.3	2.6	2.6	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	39.5	39.5	15.8	2.6	0.0	2.6	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	39.5	34.2	18.4	5.3	2.6	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	44.7	42.1	5.3	7.9	0.0	0.0	
保護者からの相談事への対応には	42.1	44.7	10.5	0.0	0.0	2.6	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	71.1	23.7	2.6	0.0	2.6	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	68.4	26.3	5.3	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	76.3	23.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	71.0	18.4	0.0	0.0	5.2	5.2	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	60.5	34.2	0.0	2.6	2.6	0.0	
意見や要望への対応については	50.0	34.2	13.2	0.0	2.6	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	47.4	44.7	7.9	0.0	0.0	





利用者本人調査

【実施概要】

実施日時：平成 28 年 1 月 20 日、1 月 26 日

実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施。

0 歳児クラス

月齢の差が大きい 0 歳児の子どもたちは、低月齢、中月齢、高月齢の 3 グループに分かれ、それぞれの生活リズムに従って生活しています。低月齢・中月齢の子どもたちが午前睡に入ると高月齢の子どもは園庭で遊びます。園庭に出るとよちよちと歩き回ったり、ままごとをしたりとそれぞれ好きなことをして遊びます。1 歳児の泥遊びの様子を見て、恐る恐る泥の上を歩いたり、触ったりし始めます。初めは汚れるのを気にしていた子どもも、少しずつ活発になり、だんだん汚れるのを気にしなくなります。午前睡していた中月齢の子どもがテラスで日向ぼっこを始めると、入れ替えに高月齢の子どもたちが保育室に入ります。保育室に漂う調理室からの匂いで子どもたちは「まんまだ」と言います。食事は、グループごとに担当保育士がつきます。食事は、離乳食の段階だけでなく子ども一人一人の発達に応じて、大きさや切り方が少しずつ違います。食べさせてもらう子ども、手づかみで食べる子ども、スプーンを使おうと頑張る子ども、ご飯を小さなおにぎりにしてもらおう子など、それぞれです。保育士に「美味しいね」「あーん」「あむあむ」などと声掛けしてもらい、子どもたちは時間をかけて、ゆったりと食事を楽しんでいます。

1 歳児クラス

園庭に出る時には、子どもたちは自分で靴を履こうと頑張ります。手伝ってほしい子どもには、保育士が手伝います。園庭での子どもたちは、どろんこ遊び、ままごと、ボールけりとそれぞれのペースで遊び出します。園庭にいた 5 歳児が三輪車を押したり、おもちゃの取り合いの仲裁をしたりしてくれます。保育士と一緒に上の園庭に移った子どもは砂場でままごとをして遊びます。一人の子どもが机の上のかごをのけると、中から凍った雪の塊が出てきて、皆で触ったり、投げてみたりして盛り上がります。保育士が手に泥を付けて見せると、子どもも真似をします。子どもたちは、手に泥を付け、怪物と言って保育士を追いかけます。怪物がオオカミに変わったりしながらも、追いかけっこは続きます。子どもが転んだ時は、保育士はすぐに助けるのではなく、子どもが自分で起き上がるよう声掛けしています。保育士に励まされ、転んだ子どもが自分で起きることができると、子どもたちも一緒に「すごい」と誉めます。食事の前にはトイレに行きます。保育士は、着替えなどは子どもの気持ちを確認しながら、自分でやりたい子どもは自分でやるように見守り、やってもらいたい子どもには、子ども自身が少し試した後、保育士が援助しています。

2 歳児クラス

朝登園すると保育室での自由遊びです。奥にあるテーブルでは、保育士とままごと遊びをしています。保育士に「お塩をかけてください」と言われると、子どもたちは、紙を折ったもので塩をかける真似をし

ます。布団入れの下の空間に潜り込んでいる子どももいます。散歩前の園庭では、三輪車に乗る子どもが数人いて、引き車を三輪車の後ろに引っ掛けて引っ張っています。しばらくすると、友達がお客さんのようにその箱に乗ります。子どもは、一所懸命にこいで、頑張ります。保育士がペダルのない二輪車を出してきて、さらに遊びを発展させます。園庭遊びの後は近くのアカシア公園で遊びます。公園の広場では、短い枯れ枝を拾ってバトン代わりにし、5、6人の子どもたちでリレーが始まります。リレーをしているうちに鬼ごっこに変わり、皆で鬼になり保育士を追いかけます。別のグループは、半円状の鉄の輪が並んだ遊具の上を、四つんばいになって渡りすべり台で滑り下ります。子どもたちは、思いっきり身体を動かし、それぞれの発想で自由に遊びを広げています。

3 歳児クラス

観察日は節分に向けての製作でした。保育士が、見本の鬼のお面と入れ物を見せながら、今日の作業内容を説明します。こどもは集中して聞いています。お面用の紙皿が渡されて、選んだ色紙をちぎってのりで貼り付けていく作業が始まります。保育士は、子どもがいろいろな色を貼ったり、紙皿からはみ出すような貼り方をしている、「大きくて強そうだね」「3色鬼になったね」などと、誉めます。お面ができると、そこに角、毛糸の髪の毛を貼り付け、保育士がそれぞれのこどもが作ったお面のパーツをホチキスで止めて完成です。お面には子ども一人一人の個性が出ています。出来上がったお面は、すぐに保育室に展示します。

4 歳児クラス

観察日は近くの俣野公園に散歩に出かけました。散歩の時の子どもたちは、盛んにおしゃべりしています。「枯れたアジサイの花に水をあげたら咲くかな」「葉っぱはなぜかれるのか」「なぜ橋の下は凍らないの」「氷の下の魚は何しているのだろうか」など、いろいろなことに興味を示します。保育士は子どもの話に耳を傾け、子どもが自分で考えるような声かけをします。公園では、「ザリガニを見たい」の声で何人かの子どもたちが池まで行きます。池では、氷を触ったり、木の枝を使って氷を引き寄せたりして遊びます。芝生では枝を骨の化石に見立て恐竜を作っている子どもや、枝を集めて焚火に見立てパーティをしている子どももいます。遊具を揺らして遊んだり、松ぼっくりを拾ったり、子どもたちは広い公園の中でそれぞれ好きなことをしながら、集団の遊びに発展させ、季節の自然を思いっきり楽しんでいます。

5 歳児クラス

朝の会の前に当番がご飯炊きの準備をします。お米をといで、コップで水を入れ、「おいしくなーれ！おいしくなーれ！」を3回繰り返して、スイッチを入れます。当番は、保育室前の水槽のザリガニのえさやりをし、プランターにも水やりします。観察日は、園庭でドッジボールをする予定でしたが、雪でぬかっているのでどうするか朝の会で話し合い、近隣の団地内の広場でドッジボールをすることになりました。皆で紐を張ってコートを作った後、リーダーの2人でじゃんけんをし、陣地を決め、その後、またじゃんけんを繰り返し、自分のチームに入るメンバーを決め、ドッジボールを始めます。子どもたちはルールをよく分かっていて、活発に動きます。2回子ども同士で対戦した後は、保育士対子どもチームの対戦をしました。皆で協力して頑張った結果、子どもチームが勝って終わりました。



事業者コメント

今回は平成20年度以来二度目の受審となりました。

職員間での自己評価をしっかりと行いたいと考え期間を長く取らせていただきましたが、日々の業務に追われる形でなかなか取りかかれなかったのは残念でした。同時に日々の業務に追われる現場の実態を実感しました。

しかしながら前回同様忙しい中でも職員一人一人が自分の仕事を振り返り、クラスの中で話し合ったり、乳児クラス、幼児クラスで話し合ったりすることで自分だけ(一人)では考えつかなかった職場の良い点、改善すべき点を確認できたのは意味のあることでした。

特に今回の受審では、人材育成の取り組みについての課題が明白になり早速これまでの「一人一人の自主性に頼るという」考え方を見直し、職員集団(組織)として目の前にいる子どもや保護者にとってより頼りがいのある職員の育成、職員一人一人が自分の仕事に誇りを持つ取り組みにしていかなければと考え、あれこれと考え始めるきっかけとなったのは大きな収穫でした。

また前回受審時に作成し、確認したマニュアルなども定期的に見直し、「今」に則したものにしていこうとの必要性も確認することができました。

今回で二度目、二つ目の評価機関の方から評価していただきました。どの評価機関の方に評価していただいても十分な結果となるよう今後も取り組みを進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、忙しい中でのアンケートに取り組んでいただいた保護者の方々には感謝するとともに、いただいたご意見を今後の運営に生かせるよう努力していきたいと考えております。今後とも「子どもたちのために」職員、保護者同士の関係作りを深めていただければ幸いです。

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号
横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01
全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-02

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室
TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118
<http://www.yresearch-center.jp>

